

公立図書館

調査回答図書館数:135館

1 平成21年度の児童書の貸出冊数について

貸出冊数(総数)

25843335.0 冊

(1館あたりの貸出冊数)

194310.8 冊

* 回答図書館数で割った冊数

登録児童1人あたりの貸出冊数(総数)

6246.4 冊

(1館あたりの登録児童1人あたりの貸出冊数)

47.0 冊

* 回答図書館数で割った冊数

2. 子どもの読書活動推進の取組みについて

(1) 現在行われている取組み(複数回答可)

絵本の読み聞かせやおはなし会	95%
ブックトークの実施	38%
子ども向け資料の展示	71%
ブックリストの作成	49%
「ブックスタート」事業の実施協力	54%
「ブックスタート」事業のフォローアップの取組み	57%
おはなしボランティア養成講座等	37%
★ その他	41%
無回答	0%
無効回答	4%

★ その他(抜粋)

- ・人形劇
- ・子ども図書館員
- ・子育てサロン
- ・子どもの本の講座
- ・折り紙教室

● 現在行われている取組みの年間実施回数(全ての取組みの合計)(市町村の1館あたりの回数)

～10回	1
11回～20回	2
21回～30回	3
31回～50回	9
51回～100回	14
101回～200回	12
201回～500回	2
501回～	0

(市町村単位)

(2) 連携を行っている機関等及び連携内容について【連携機関等】(複数回答可)

学校(学校図書館)	75%
学校(学級文庫)	54%
幼稚園	82%
保育所	89%
保健センター	69%
子育て支援センター	61%
児童館	38%
公民館・青少年教育施設	52%
★ 行政他部局	44%
その他	53%
無回答	0%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・家庭文庫
- ・学童保育所
- ・介護施設
- ・老人ホーム

【連携内容】(機関別)(複数回答可)

学校(学校図書館)	
団体貸出	35%
移動図書館(BM)の派遣	5%
図書配送システム	15%
おはなし会(読み聞かせ、ブックトーク等)の開催	11%
担当者連絡会	15%
連携学習会	4%
★ その他	16%

★ その他(抜粋)

- ・リサイクル図書の譲渡
- ・図書館見学受け入れ
- ・職場体験学習

学校(学級文庫)

団体貸出	60%
移動図書館(BM)の派遣	7%
図書配送システム	5%
おはなし会(読み聞かせ、ブックトーク等)の開催	11%
担当者連絡会	3%
連携学習会	1%
★ その他	12%

★ その他(抜粋)

- ・リサイクル図書の譲渡
- ・除籍図書の移譲

幼稚園

団体貸出	55%
移動図書館(BM)の派遣	2%
図書配送システム	3%
おはなし会(読み聞かせ、ブックスタート等)の開催	23%
担当者連絡会	2%
連携学習会	2%
★その他	13%

★ その他(抜粋)

- ・子育て支援講座共催
- ・ブックリスト配布
- ・除籍図書の移譲
- ・図書館見学

保育所

団体貸出	62%
移動図書館(BM)の派遣	2%
図書配送システム	3%
おはなし会(読み聞かせ、ブックスタート等)の開催	22%
担当者連絡会	1%
連携学習会	1%
★その他	10%

★ その他(抜粋)

- ・子育て支援講座共催
- ・ブックリスト配布
- ・除籍図書の移譲
- ・絵本講座の開催

保健センター

団体貸出	14%
移動図書館(BM)の派遣	4%
図書配送システム	0%
おはなし会(読み聞かせ、ブックスタート等)の開催	20%
担当者連絡会	18%
連携学習会	2%
★その他	42%

★ その他(抜粋)

- ・妊婦教室での絵本の紹介
- ・ブックスタート事業の実施
- ・保護者向け読み聞かせ講座の開催

子育て支援センター

団体貸出	25%
移動図書館(BM)の派遣	3%
図書配送システム	3%
おはなし会(読み聞かせ、ブックスタート等)の開催	39%
担当者連絡会	8%
連携学習会	3%
★その他	19%

★ その他(抜粋)

- ・子育て支援講座共催
- ・ブックリスト配布
- ・絵本講座の開催
- ・子ども読書週間スタンプラリーの開催

児童館

団体貸出	57%
移動図書館(BM)の派遣	0%
図書配送システム	0%
おはなし会(読み聞かせ、ブックスタート等)の開催	43%
担当者連絡会	0%
連携学習会	0%
★その他	0%

★ その他(抜粋)

- ・図書館だよりの配布

公民館、青少年教育施設等

団体貸出	39%
移動図書館(BM)の派遣	3%
図書配送システム	13%
おはなし会(読み聞かせ、ブックスタート等)の開催	23%
担当者連絡会	3%
連携学習会	6%
★その他	13%

★ その他(抜粋)

- ・講座への協力
- ・絵本ライブの開催

行政他部局

団体貸出	41%
移動図書館(BM)の派遣	0%
図書配送システム	0%
おはなし会(読み聞かせ、ブックスタート等)の開催	15%
担当者連絡会	11%
連携学習会	7%
★その他	26%

★ その他(抜粋)

- ・選書の指導

(4)障がいのある子どもへの読書支援について (6)外国人の子どもへの読書支援の取組み
障がいのある子どもが本に親しめる催し
外国人の子どもが本に親しめる催し
(複数回答可)

おはなし会	29%
絵本の読み聞かせ	15%
★その他	14%
無回答	65%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・ペープサート
- ・さわって楽しむ布の絵本の展示
- ・点訳絵本の展示

おはなし会	3%
絵本の読み聞かせ	2%
★その他	56%
無回答	79%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・「いろんなことばのおはなし会」
- ・英語・中国語・韓国朝鮮語による絵本の読み聞かせやパネルシアター

(5)乳幼児への読書支援について
乳幼児が本に親しめる催し
(複数回答可)

おはなし会	80%
絵本の読み聞かせ	80%
★その他	85%
無回答	15%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・わらべうた
- ・てづくり遊び
- ・親子で楽しむ絵本の講座

公立図書館

3. 子どもの読書活動推進の取組みに関わるボランティアについて

(1) ボランティアの有無

いる	84%
いない	7%
無回答	9%
無効回答	0%

(2) 関わり始めた時期

～昭和57年	26%
昭和58年～平成2年	9%
平成3年～平成12年	30%
平成13年～平成22年	16%
無回答	9%
無効回答	9%

(3) グループ数

～3	43%
4～5	31%
6～10	15%
11以上	4%
無回答	0%
無効回答	7%

合計人数

～10人	12%
11人～20人	23%
21人～50人	39%
51人以上	13%
無回答	0%
無効回答	13%

(4) ボランティアの活動内容

読み聞かせ	78%
おはなし	56%
ブックトーク	9%
紙芝居	33%
人形劇	14%
パネルシアター	19%
点字絵本の作成	24%
さわる絵本の作成	29%
★ その他	35%
無回答	0%
無効回答	4%

★ その他(抜粋)

- ・点字本作成や朗読
- ・てづくりおもちゃの作成
- ・乳児向けおはなし会
- ・折り紙教室
- ・てづくり紙芝居講座

ボランティアの年間活動回数
(全ての活動内容の合計)
(市町村の1館あたりの回数)

～10回	12
11回～20回	6
21回～30回	2
31回～50回	9
51回～100回	5
101回～200回	5
201回～500回	3
501回～	1

(市町村単位)

(5) ボランティア研修を行っていますか

いる	60%
いない	36%
無回答	4%
無効回答	0%

(6) ボランティアに対する図書館からの支援
(複数回答可)

図書館資料の提供	95%
活動のスペースの提供	88%
活動に関わる相談	63%
★ その他	38%
無回答	5%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・交流会の開催
- ・講座・イベントの共催・協力
- ・チラシ置き場の提供
- ・子ども文庫への長期貸出
- ・ボランティア連絡会の開催

自由記述(抜粋)

2-(1) 現在、行われている取組み及び効果と課題(選択肢以外)

- ・夏休み期間等に小学校高学年～中学生を対象におはなしボランティア講座の実施など、少しずつ中学生への働きかけを拡充しているが、学校との連携を強化した取組が今後一層必要である。
- ・ボランティアの地域に根ざした活動の場が増え、また多様化してきている。今後もボランティア講座を実施し、ボランティア数を増やしていくとともにボランティアが主体となって「仲間を増やす」活動につながるよう支援する必要がある。
- ・ブックリストコーナーの設置により利用が増加した。
- ・ブックスタート事業の実施により、赤ちゃんと保護者の来館が飛躍的にふえた。
- ・ブックスタートの絵本配布率アップと新たに立ち上げる事業にもなうボランティア養成が必要。
- ・学齢期における本に親しむ機会の拡大。平成22年度から小学校3年生の図書館見学时にブックトークを実施。

2-(2) 現在、他の機関と連携を行うことの効果と課題

- ・図書館内だけで事業を実施するのではなく、身近な学校や施設で学校司書や保育士、保健師といった専門職と連携しながら行うことで、多くの子どもや保護者の参加を得、事業の内容を充実することができる。継続してお互いに情報交流を行い、事業をすすめていくことが課題となる。
- ・公立図書館が学校図書館の活動を支援することで、学校図書館が活発になり、学級貸出も増えた。
- ・学校・幼稚園、保育園等が要求しているものがわかり、図書館に来ない子どもとのコミュニケーションがとれる。その結果、図書館の利用にもつながり、色々な本が紹介できる。ただし、すべての学校との連携がとれていない。
- ・中学校は同じやり方が機能せず、サービスがむずかしい。
- ・連携の相手方(学校図書館等)に、専任かつ常勤の担当者が不在のため、経験が蓄積されないこと。
- ・中学・高校との連携が取れていないので今後状況に応じて検討する必要がある。
- ・地域の学校図書館の担当者との交流がほとんどない。

2-(3) 学校との連携を強めるために行っている取組み

- ・21年度には、学校現場で図書館資料、主に児童書を活用してもらうため、小学校で使用している「国語教科書に出てくる作品と関連本(小学校全学年)」のリストを作成し、小学校全教諭に配布した。
- ・図書館で除籍した本を学校へ移譲した。
- ・年度初めに、新一年生に図書館紹介のチラシと、未登録者に登録の呼び掛けのためのチラシを学校を通じて配布している。この依頼を兼ねて、学校へ出向き、団体貸出をすすめたり、出張おはなし会について情報交換を行っている。また、夏休み前に小学生向けリストを配布している。
- ・新学期の校舎長会で図書館のサービス内容を周知している。
- ・新任学校司書や司書教諭を対象として、市立図書館の役割や学校との連携についての研修を実施している。

2-(4) 障がいのある子どもが本に親しめるような環境づくりの取組み

- ・障がい児通園施設や支援学校へ移動図書館が巡回、及び、おはなしグループに委託しておはなし会を年1回実施。リサイクル図書の譲渡。休館日を利用しての図書館見学の実施(障がい児通園施設から園バスで乗り入れ)。布の絵本や大型絵本、点字絵本などの図書整備。
- ・ボランティアによる「さわる絵本」の制作。
- ・支援学級への読み聞かせに適したおすすめ本の紹介。点字図書、さわる絵本の購入。
- ・点字・録音図書の受入 支援学校への読み聞かせボランティアの派遣。
- ・障がい児のクラスのある中学校でおはなし会を行っている。
- ・視覚障がい児を対象としたデージー図書の配置。

2-(5) 乳幼児が本に親しめるような環境づくりの取組み

- ・絵本コーナーの設置、乳幼児向け絵本コーナー、乳幼児向けブックリストの設置。
- ・くつをぬいで、床に座ったり、ソファに座ったりしてもらう「おはなしのへや」が館内にある。「おひざにだっこのおはなし会」では、出入り自由とし、居心地の良さをまず感じてもらえるように、雰囲気づくりに配慮している。
- ・たたみを敷いて赤ちゃん向けの蔵書を整備したコーナー設置。集会室などを開放して絵本の紹介や参加者の交流をはかるスペースづくりなど。授乳室(専用でない館もあり)やおむつ替えコーナーの設置。

2-(6) 外国人の子どもが本に親しめるような環境づくりの取組み

- ・外国語の絵本を児童コーナーの近くにまとめて配置している。
- ・ブックスタート時に外国語訳付きのハンドブックを配布している。
- ・外国語の絵本棚あり。日本での生活に慣れたい等、個々の相談にのって本探しのおてつたいをする。

2-(7) 2-(4)~(6)の取組みや催しの効果と課題

- ・ボランティア養成講座を修了したボランティアグループが、障がいのある幼児の通園療育リハビリセンターで絵本の読み聞かせを行い、子どもたちとも学校の先生方とも良い関係が築けている。課題は、ボランティアの養成である。
- ・従来図書館サービスを受けられなかった子どもたちが、図書館を利用できるようになった。課題は、障がいのある子どもへのサービスが十分できていないことで、今年度は、障がい児の通う施設で、出前「ブックスタートのひろば」の実施を計画している。
- ・図書館見学や図書館での行事を実施することで、障がいのある子どもや外国人の子どもにとって、図書館が安心してすごせる場所であることを知ってもらいきっかけとなっている。
- ・障がいのある子どもや外国人の子どもへの読書支援については資料数も職員のスキルもまだまだ足りない状態である。ボランティアの養成や他の専門機関との連携が今後の課題である。
- ・ブックスタート事業のいきづまりがあるように感じるので、連携を深めたりもう少し見直しが必要であるように思う。
- ・外国語による絵本の読み聞かせ会を以前は実施していたがボランティアの確保が難しく中止となった。いずれもボランティアの協力なしでは実施できないのが現状であり、ボランティアとの調整が今後の課題である。

3-(7) ボランティアとの連携による効果と連携を進めるための課題

- ・ボランティアを指導する職員のスキルアップ研修などが考えられる。
- ・職員にはない経験、技術を生かせる。絵本に対する考え方、催し物に対する考え方が職員と少し違うため意志疎通を計ることが必要である。
- ・図書館に寄せられる本や人、地域の情報が増え、職員が地域で行う出前講座などの事業協力も得られやすくなった。ただ、ボランティアの方から同じように協力要請があっても、業務繁忙により、職員がなかなか応えられないのが現状である。
- ・個別に活動しているボランティア団体相互を取りまとめ、ふれあい及び情報交換の推進を図る。
- ・ボランティアと連携し、協力を得ることで子どもが図書館をはじめ市内の身近な場ではなしや絵本の読み聞かせを楽しむ機会が増える。また職員とボランティアがともに活動することで情報交流の場となることが効果の一つとしてあげられる。課題としては継続的な資料や活動の場、研修の場の提供が必要となる。

4 お尋ねした項目以外の特色ある取組み及びその効果

- ・秋の読書週間の期間中にボランティア活動展を行い利用者に活動を知ってもらうために「図書館まつり」を開催
- ・学校図書館や地域、既存の公共施設などを利用して、図書館と連携し、ネットワーク化をすすめ、『まちごと「子ども図書館」』と位置づけ、具体的に、検討している。
- ・学校での読書活動の取組みは学外に知られにくいので、図書館の一角にスペースを設け「本となかよし」と銘打って、学校の様子を写真展示・人気本発表などの方法で来館者にアピールしている。
- ・「私の好きな本を紹介します」という取組みで中学生までの子どもたちに、自分の好きな本の紹介を絵で描いてもらう。平成18年度から夏休みに実施している。
- ・「スクールサービスデー」を平成22年度から実施している。小・中学校その他障がいのある子どもたちや学童保育所等、団体種別にグループ単位で利用してもらえるよう、グループ別に利用案内を作成、配布している。